

## 卓球部

全日本学生選抜卓球選手権で  
明大勢が1・2位

2021年11月27日、28日に宮城県カメイアリーナ仙台で行われた全日本学生選抜卓球選手権大会男子シングルスで、体育会卓球部の宮川昌大選手(情報コミュニケーション学部2年)が優勝、出雲卓斗選手(政治経済学部4年)が2位となった。

ベスト4に残った宮川選手、出雲選手の二人は決勝戦で対決。激戦の末、4-3の僅差で勝利した宮川選手が優勝を手にした。西康洋選手(商学部4年)もベスト8入りを果たしており、上位8人中3人が本学卓球部の選手となった。



ガッツポーズの宮川選手  
(写真：明大スポーツ)

## フェンシング部

インカレ・女子エペで  
稲山選手が優勝

2021年11月17日から21日に開催された全日本学生フェンシング選手権大会(インカレ)女子エペ個人戦で、体育会フェンシング部の稲山友梨選手(経営学部1年)が優勝、佐藤琴美選手(政治経済学部2年)が3位の成績を収めた。

稲山選手と佐藤選手は共に決勝トーナメントで駒を進め、稲山選手と佐藤選手の明治対決と

なった準決勝で勝利した稲山選手が決勝戦も白星をつけ、優勝を勝ち取った。

同大会での個人優勝は、全種目を通じ1957年以来64年ぶりの快挙となった。

また、12月17日から19日に開催された全日本フェンシング選



メダルを手に笑顔の稲山選手(左)と佐藤選手

手権大会(団体戦)女子エペで、本学フェンシング部は準優勝となった。

エペ…フルール、サーブルと並ぶ、フェンシングの種目のひとつ。有効面(得点となる範囲)が足先までの全身と、他の2種目と比較して最も広く、先に突いた選手がポイントを獲得する。

## ラグビー部

## 大学選手権 2年ぶり準優勝

第617回

明大スポーツ新聞部



文/金井 遥香(情コミ2) 写真/佐野 悠太(政経1)

視野を広くチームを引っ張る  
貫け頂点への志

ヨット部 富永 祐大

「決めた目標を下げず、最後までやり遂げられるチームに」。11月、1年間の集大成である全日本学生選手権を総合8位で終え、新体制を迎えた明大ヨット部。スローガンに



「貫徹」を掲げ、富永祐大主将(法3=高松商)は新たなチームを率いていく。

祖父の影響で、地元・香川県にて小学4年次からヨットを始める。「もっと走れるようになったら楽しいだろうな」。高校でも競技を続けることを決意し、県内でも強豪校の高松商高へ。いざ部活動が始まると、ヨットの経験のある部員は一学年に2人ほど。0からスポーツを教えることの難しさに悩み抜いた。「伝え方もうまくいかず、言い過ぎてしまうことがあった」。また、競技に対して熱い思いを持つ部員が多く、個がぶつかり合うこともしばしば。しかし、そのような高校時代の経験は、大学で大きく生かされることとなる。

スポーツ推薦生として明大ヨット部に入部。推薦生は代で2人のみと、高校時代と似た環境だった。